

## 令和5年度 学校関係者評価書

## 4つの「重点的な取組事項」について

## 「自己評価書」全般について → 評価が低すぎると判断します

- 一定の成果があるのに全体で「◎」が2つに対して「△」が4つで、あとは「○」が19となっており、どちらかというとなマイナスとなっています。
- 「○」から「◎」への道筋が「コメント・課題」に示されていない項目も多く、そもそも「○」の自己評価が低いのではないかと考えます。
- 評価の低さは、元気のなさにつながる感じがして、次期のモチベーションに影響を与えてしまうのが心配です。

## 「学力向上アクションプラン」

- 教員アンケート結果も参照すると、特に評価が低いのは「ICT活用」です。「できている」と応えた教員の割合が「できていない」よりも少ないという、他に例を見ない結果になっています。**単独の学校だけでは解決できない根本的な教育手法の課題**とも受け取れます。まごまごしては、すぐに児童は卒業してしまい、結果的に何の成果もなかったということになりかねませんので、少し危機感を感じます。

## 「体力向上」

- 「今年度の成果目標」の未達に関しては、今後の達成のための課題把握と解決のためのプランが求められます。
- 食育関連については、なぜ評価が「◎」でなく「○」なのかわかりません。

## 「心の醸成」

- いじめについては、地道な努力が伝わってくるのですが、自己評価が「△」となると、なにが重要課題なのかが理解しにくく思えます。コミュニケーションによって保護者評価を高めるのは一つの方策かもしれませんが、何はともあれ「**小さな芽のうちに解消**」しているなら、評価が「△」ということではなく、せめて「○」です。

## 「保護者・地域との連携協力による教育活動の充実」

- 保護者との連携の評価は「◎」になっていますが、高評価と裏腹に“PTA会長の不在”を解消できていないのは、なぜなのでしょう。学校として、その構造的な問題を「課題」として見ていないのは疑問です。

## 協議会として特に言いたいこと

## タブレット教育は今の学校だけじゃ無理だと思う

- 先生方は、タブレットの使い方を知っているのか？タブレットのありがたみがわかっているのか？そんなはずはない。なぜなら、先生をやっている限り、児童教育以外でタブレットに真剣に向き合う必要性がないから。
- 教育のためにタブレットの使い方を学んでも、日常ツールとしてのタブレットの有用性を実感することはできない。
- 今の学校だけでは、児童にタブレットを教えるのにおのずと限界がある。
- そういうことは、学校に話しても当然には理解は得られないので、学校教育を司る行政の方々にお話したい。
- でも、聞いてくれるのだろうか？
- 他の学校の協議会の方々には、このことに関してどう思うのだろうか。ぜひ聞いてみたい。そして、協力して行政にお話をしてみたい。

## PTA会長を早期に決めてほしい

- 昨年度、文科大臣に表彰までされた活動をしていた本校PTAに、なぜ会長がいないのか？いまだに理解できないでいる。
- 表彰の成果はどこにあったのか？あるいは、表彰がマイナス（あり得ない！）だったのか？
- PTA現会員以外の、顧問や地域の方はみな、会長がいない状況を「そんなのおかしい」と言っている。その状況はPTAにも伝わっている。
- 学校の先生も、PTAのメンバーなのだから責任の一端はあるはず。
- 「会長のなり手が見つからない」のが現状で、これは本校だけでなく、PTA会長がいない区内学校も増えているし、PTAのない学校すらも出てきている。
- PTA会長の役割を担える人材は
- PTAのそもそもの存在意義についても議論が必要となっている。
- 協議会にとって、PTAは非常に重要な団体の一つであり、困難があるのなら力になりたいと考える。
- 今年度はPTA現会員との会話を増やす機会をつくってきたが、今後もますます飲み会他の機会を増やしたい。

## 学校関係者としての思い

- 菅原校長の大谷田小学校は、全体的に確実に良くなっているはず。それを伝える大きな元気が欲しいです。関係者の力を結集したいです。
- そこに「大谷田ならではの」地域性も必要だと考える。それを創り維持するのは地域の力だと考えます。協議会は、少しでもその力になりたいと思います。